



本郷台小 だより

10月

横浜市立本郷台小学校
令和3年9月30日
栄区本郷台一丁目6番1号
TEL 045-893-4010



学校ホームページ：<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hongodai/>

動 く

校長 原 南実子

校庭の造形砂場の隣にあるハナミズキの木が赤く色付いてきました。10月を迎え、これから秋は深まりを装っていくことでしょう。台小農園のさつまいもも実りの秋を迎えます。9月は、緊急事態宣言に伴う分散登校やタブレット端末を活用した学習への対応など、保護者の皆様には大変お力添えをいただきました。ご理解とご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、6月末、教育プログラムとしてオリンピック・パラリンピック学校訪問事業を行いました。来てくださったのは車いすラグビーパラリンピアンとしてアテネ、北京、ロンドン大会で活躍された三阪洋行さんです。先日、横浜市市民局オリンピック・パラリンピック推進課より修了証が届きました。その中に、三阪さんからのメッセージが載っていました。全文紹介します。

コロナ禍で制限がかかる中、このような機会を作っていただき、お話しできたことで、一番伝えなかった「何ができるか」「どうしたらできるか」ということを、パラリンピックスポーツを通して伝えられたのではないかと、最後の子ども達の質問やお礼の言葉で確信を得られました。パラリンピックからたくさんのことを学んで、これからみんながチャレンジすることのヒントをつかんでもらえるような時間を作ってほしいと思います。今回はそのきっかけとなる素晴らしい回だったと思います。



子ども達は三阪さんのお話やビデオを食い入るように聞き、見ていました。質問も後を絶ちませんでした。授業が終わった後の感想をいくつか紹介します。

- ◆大好きだったラグビーでけがをしたのに車いすラグビーをしていることがすごかったです。お話を聞いて、もしできないことがあったら、他の事をすればいいと思いました。次からは、できないことがあったらできることをやればいい、と知りました。
- ◆スポーツをしている人が泣きながらハグするところが本当に印象に残りました。オリンピックもパラリンピックも、選手はどちらも体を張って一生懸命頑張っていて、スポーツはスポーツ、どちらも変わらないじゃないかと感じました。
- ◆心に残ったのは「みんなと違うことは悪いことではない」という言葉です。人にはいろいろな個性があり、同じ人なんていなく、自分の持っている個性をどのように使っていくかで、自分の人生、未来が変わる、という言葉に私は共感して、いろいろな個性があるからこそいろいろな考え方ができるなと感じました。どんなことがあっても夢をあきらめないようにしたいです。

先日閉会したパラリンピック。そのロゴマークは「スリーアギトス」と呼ばれています。「アギトス」とはラテン語で「私は動く」という意味だそうです。子ども達が三阪さんから学んだことはまさに「私は動く」ということだったのだと思います。困難があっても、人と違っていても、自分はどうかありたいか、何ができるか、どうすればできるかを考え、動くこと。動くことで道は拓かれていくのだと、三阪さんは自分の体験を通して明るく、力強く伝えてくださいました。障害があるかどうかではなく人として心や魂は同じだということも、子ども達はしっかりと受け止めました。

6年生は今、台小のみんなが明るく元気になるために最高学年として何かしたい、と話し合っています。自分たちの未来を創り出そうと動き出しています。優しさと逞しさをもったその動きは、全校に広がることでしょう。そしてそれは、台小の伝統を紡ぐことになるのだと思います。